

行間  
space



- 伏見製薬所社長伏見豊氏の祖父 豊次氏が、丸亀市金倉町（旧中津町）の倉倉川尻にコンビラ染料会社を創りました。当初は『芒硝』及び『塩酸』を主に製造し、『芒硝』は染料メーカーに、『塩酸』は軍需用として兵衛重工業に納入していました。

- 豊次子明仁親王誕生
- 日本初の公営地下鉄開通

- 世界恐慌による米価高騰
- 日本初のメーデー開催

● 1933年 昭和8年

2 新しい試みへ



- 1000円札発行
- 朝鮮戦争が勃発

- 電気器具の使用禁止
- 『ぜいたくは敵だ』の立看板

● 1940年 昭和15年

3 青年学校を設立



行間  
space

行間  
space



工場内に私立伏見製薬青年学校を開校し、該当従業員の教育を始めた。青年学校とは、昭和10年の青年学校令に基づき、小学校を卒業した勤労男女子のために軍事教練を中心とした社会教育をおこなうもので、小学校に併設の形で設けられたのが一般的でした。このように工場内に設けたのは、対象者の通学時間の口スを少なくさせ、勉強時間は作業時間に合わせて配るようにとの配慮からでした。

● 1951年 昭和26年

4 株式会社伏見製薬に改組



- 人類がエベレスト初登頂
- DHAの二重らせん構造決定

● 1953年 昭和28年

5 医薬品誕生のきっかけは、ある一つの工業製品



行間  
space



『抗酸バリウム』は、X線造影剤として現在医療現場で活躍している主要商品。この誕生のきっかけは、自社生産していた『塩化バリウム』でした。即方品を製造すべく手探りの実験を重ねて品質規格に合格し、即方結晶バリウムを主成分に製剤した『バリトゲン』を完成させました。

その後、X線診断に画期的な精度をもたらす『二重造影法』が開発し、国際消化器学会を通じて世界に紹介され、国際的に高い評価を受けました。同時に、『胃腸検車』の普及も始まりました。

● 1960年 昭和35年

6 伏見豊次社長、香川県経営者協会会長に就任



行間  
space



豊次社長が香川県経営者協会会長に選出されました。すでに多くの機関、団体の役員に就いていたため、社外活動幅の幅が広がりました。

● 1970年 昭和45年

7 伏見製薬株式会社が発生



従来の難燃剤に比べて難燃性が高いうえに、火災時に燃焼しても有毒ガスの発生が低く、安全性に優れている『ラビドル』を開発しました。日常使用されているパソコン及びプリンターの筐体並びにその中の部品や基板等が燃える可能性があり、難燃性が求められていました。世界主要各国の化学物質インベントリーに登録し、優れた安定性を証拠に、国内外の市場開拓に乗り出しています。

- 第1回東京マラソン開催
- 『読書日』が国行日に

● 現在

11 昔の製造設備・部品は宝物



行間  
space